
覚醒

アンデッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

覚醒

【Nコード】

N2430G

【作者名】

アンデッド

【あらすじ】

——僕は再び、目を覚ます——。そうして僕と貴方が覚醒するストーリー。実験的・千文字掌編。

目が覚めると、僕はどこかの部屋にいた。
はわわわわわー。

そう、ここは僕の部屋だった。

気が付くと、そこは僕の部屋だったことを、思い出した。

誰もが自分の部屋を思い浮かべた時、最初に浮かんでくるような部屋。そんな部屋だ。

なんで僕は、自分の部屋にいるんだろう。

わからないね。

そうか。昨日、あれがあれして、アレだったんだった。

誰もがアレと聞いて思い浮かべた時、真っ先に思い浮かんでくるようなこと。それがアレだった。

アレのあれは、あのあと、どうなったんだろう。

僕は、アレのことが気になった。

「ニャア」

うわ！

僕は、驚いた。

ああ、なんだ。

猫か。

その猫は、誰もが猫と聞いた時、真っ先に思い出すような、そんな猫だった。

しかし、なんで猫が。僕の部屋にいるんだろう。

気がつくと、僕の家は猫を飼っていたことを、思い出した。

そう。みんなが自分の小説で猫を書きたくなるぐらい、みんな猫が好きなんだった。

だからうちも、こうして猫を飼っているんだった。

「ニャア」

可愛いなあ。

猫って。

可愛いなあ。

そうしている内に、時間が過ぎていった――。

「晩ご飯用意出来たよー！ 早く降りて来なさいー！」

誰だ！

目を覚ますと、僕を呼ぶ母親の大声がした。

そうだ、母親だった。

気がつくのと、僕には母親がいることを、思い出した。

誰もが母親と聞いて思い出す時、すぐに思い浮かんでくるような母親。そんな母親だった。

気がつくと、もう晩ご飯の時間になっていた。

時が過ぎるのは、早いもんだあー。

「ニャア」

うわ！

猫か。

可愛いなあ。

そうして、また時間が過ぎていった――。

「晩ご飯早く食べないと冷めるよ！ もう片付けるよ！」

誰だ！

目を覚ますと、晩ご飯の時間だったことを、思い出した。
僕はその言葉に従って、晩ご飯を食べに降りて行った。

——誰もが晩ご飯を思い浮かべた時、最初に浮かんでくるような、
晩ご飯のメニュー。

そんな晩ご飯を食べ終わり、僕は自分の部屋に戻ってくると、突然にアレのことを思い出した。

そうして、僕はまた寢床についた。

——僕は、目を覚ました。

気がつくと、僕はどこかの部屋にいた。

僕は、自分が目を覚ましたことに気づくと、そうして目を覚ます
ことに気づく自分に、初めて気がついた。

そうやって目を覚ましたことに気づいた僕は、自分が目を覚まし
たことに気づいた旨が書いてある、小説の書き出しを読んでいるこ
とに、気づいた。

だって、これを読んでいる君も、そうだろう？

「ニャア」

誰だ！

（後書き）

執筆歴の浅い僕の実験作です。解説します。

『目が覚める』『気がつく』『夢から覚める』という様な書き出しから始まる掌編が多いです。

かく言う僕も、そういう『意識を取り戻すと』系のネタはこのサイトで二つ書いてます（内一つは気づいた後なので書き出しを工夫した）。

そうした最近気になってる事を元にして、実験的なメタフィクション（詳しく検索で）で第四の壁（詳しくは検索で）を突破しました。夢オチ的なラストを匂わせてますが夢オチには批判的な意見もある筈なので、夢オチか定かではない構造にしました。

全体的に幻覚的なメタフィクションですが、深読みすると、すぐ寝ちゃう症候群やすぐ忘れちゃう記憶障害ですかこれ。ただ面白可笑しいメタフィクションじゃなく、病人の話として重く取れますね。

何も考えずに賑やかしてコミカルに書いてたら不謹慎かなあとも思いました。そういう事で一応関連キーワードは入れています。

更に踏み込んだ解説。

主人公は記憶への依存度が低い記憶薄弱な人です。物事の認知度がスカスカな分、描写を読者の想像に全て委ねてるってメタフィクション性は主人公の精神面に起因します。最後まで明かされない『アレ』というのもマクガフィン（詳しくは検索で）です。

特に前者は主人公と読者をリンクさせて〓にしていく目論見で、最終的に極めて〓になるという仕組みを図ってます。

お笑いでいう所の天井も盛り沢山に入っています。これ、書いてる時は書こうとすればもっと書けると思いながら書いてました。

けど『〜と聞いて誰もが最初に思い出すような』という読者委任描写なんて、自分でもしつこいぐらいだと思います。これ以上やると

クド過ぎるなど。

そういう意味でも1000文字ならではの物です。

タイトルは本来の夢から覚めるという意味合いと、主人公と読者がフィクションという世界から目覚める意味とにかけてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2430g/>

覚醒

2011年4月9日02時40分発行